

知事と区市町村長との意見交換会(豊島区)

令和2年10月20日(火)

15時50分～16時10分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いをいたします。

○知事 よくお声は伺っているんですが、こうやってまたお目に掛かるのは久々のような気がいたします。先日もインクルーシブな公園のオープン、本当におめでとうございます。

今日は今ウィズコロナの時代、どうやって新しい日常をつくり、また、新しい構造改革等にも取り組んでいる中で、新しい日常をどうつくるのか、サステナブル・リカバリーをどう進めるのか、また、長期戦略をどうするのか、様々。

こうやって毎回23区の区長にはほぼ全員来ていただいているわけですが、去年とは全く環境が変わっている中で、皆さん現場のお声をお伺いしたいと思っておりますので、短い時間ですが、よろしく願いいたします。

今日は保健所長もお越しいただいて、ありがとうございます。また、優秀な副区長も来ていただいて、ありがとうございます。

○豊島区長 今日同期も。

○知事 ああ、同期も。ああ、そうですね。優秀な副区長の皆さん、お越しいただいてありがとうございます。

○行政部長 それでは高野区長、ご発言をお願いいたします。

○豊島区長 今日は機会をいただきまして、ありがとうございます。豊島区長の高野之夫でございます。

それでは23区それぞれ、いろいろな新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしておりますが、豊島区では区独自のPCR検査や、区内医療機関への委託によりまして、現在、約月に1,500件のPCR検査を実施しております。

6月の下旬には新宿歌舞伎町とともに、この池袋が夜の街と言われました。区では早急に対策を打ち出し、まず豊島区方式といたしましてホストクラブとか、あるいはキャバクラにピンポイントでPCR検査を行い、クラスターの発生した店舗へ休業協力金を支給し、今まで以上に厳しく防止対策を要請いたしました。

7月から9月までは、池袋繁華街感染防止キャンペーンと称しまして、お手元にあります、このポスター、感染防止ポスター、飲食店認証ステッカー、小さいものでありますけど、東京都よりちょっと小さいんですけど、一回り少ないんですけど、これを貼ってもらうように、それぞれ区の職員が7月から9月まで、総勢職員が320名、加えて地元の商店街、あるいは警察の協力によりまして集中的に行いました。

大変、こちらにあるように宣言にもお店にちゃんと確認していただいて、それで誓約書ではありませんけど、お店の名前とそして二通のうち一つはお店に貼ってもらい、一つは私

たちがちゃんと住所、氏名、責任者の名前まで入れてやったわけでありまして。

これは対策でありまして、まさに完全に夜の街の封じ込め作戦には成功したと思っております。接待を伴う飲食店で感染した患者の割合は、6月にはなんと33%でございましたけど、現在は僅か1%台ということで、ほぼ池袋の繁華街はコロナ対策には本当に徹底した成果があがったのではないかと考えております。

そして次には東京都におきましても、ひとり親対策、福祉介護施設対策、あるいは高齢者に対する対策は万全を期していただいておりますけど、豊島区も現在、ひとり親世帯や福祉介護サービス事業者への支援を実施しております、予断を許さない状況下においては、区としてさらなる支援の拡大が必要ではないかと考えております。

特に早急な対応として、家族あるいは同僚が陽性となった場合で、ご本人が濃厚接触者に当たらず、感染リスクに不安を抱いております学校、あるいは保育施設の職員等のPCR検査費用を全額補助する事業を、現在準備をしているわけでありまして。

子供たちが安心して学び、遊び、そして職員が感染の不安なく働ける現場への支援は、今まさに取り組まなきゃならない最重要案件と考えているわけでありまして。

この取り組みには一過性のもものでは意味がないため、何度も検査を受けても補助が受けられるものとしております。現場の安全、安心を確保するため、東京都からもぜひ財政的なご支援をお願いしたいと思っております。

次にSDGsについて、お話をさせていただきます。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すため、国連サミット全世界で採用された17項目の国際目標であります、豊島区では7月17日に内閣府よりSDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業に選定をされました。

東京一極集中の渦中にある本区にとっても、大変厳しい挑戦になると考えておりましたけど、晴れてセーフコミュニティの国際認証、東アジアの文化都市に続く、東京都で唯一のダブル選定という快挙を成し遂げることができました。

次に移りますけど、本区は私が区長に就任した時の財政破綻のピンチから2014年、消滅可能性都市の指摘以降、文化を軸にまち全体が、舞台の誰もが主役になれる国際アート・カルチャー都市を目指して、思い切った政策転換を図りました。

その結果、消滅可能性都市の主な原因とされました、女性人口は倍増（※倍増ではなく増加です）し、待機児童ゼロを4年続けて達成（※平成29,30,令和2年度はゼロ、平成31年度は国の定義が変わったため16人であったが、変更前の定義ではゼロ）、そしてさらには2019年には日本代表都市として東アジア文化都市を開催する等、着々と国際文化都市へ歩みを進めております。

今後も豊島区は誰一人取り残さないまちを目指して、様々なSDGs事業を展開してまいりますので、東京都におかれましても財政面を含めて、強力なバックアップをいただきたいと思っております。

そして次に移りますけど、サンシャインシティは東京の豊島区の顔として40年、その役割を担ってきたのでありますけど、今、東京のまちづくりが高度成長期に伴って大規模ビルが建設されましたけど、今、まさに更新期を迎えております。

その中で、かつては日本一の高層ビルであったサンシャインシティが取り組んでいる既存ストックの有効活用は、これからのまちづくりの重要な政策となるのではないかと考えております。

サンシャインシティの特定街区の変更については、昨年も要望させていただきましたが、ぜひ東京の顔として、これからのまちづくりとして一層の促進にご協力を賜りたいと思います。

また、小池都知事もよくご存知の池袋西口駅前の再開発でございますけど、地権者の意見集約も徐々に進んでおまして、私はスピード感を持って推進してまいりたいと思いますので、実現に至るまでは様々な課題、例えば国家戦略特区の指定等々もございまして、東京都にはご指導賜り、力強いご支援をいただきたいと思っております。

私は区長就任以来、文化によるまちづくりを推進してまいりました。今日に至るまで、文化創造都市宣言を行い、平成 18 年には豊島区の文化芸術振興条例、さらには文化庁長官表彰等々、平成 26 年には豊島区の国際アート・カルチャー都市構想を策定し、さらに昨年は日本を代表して東アジア文化都市事業を東京都の協力をいただきながら、大成功を資することができました。また、本年 7 月には東京で初めて SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業として選ばれました。

私は今申し上げたとおり、これからもぶれることなく、文化の取り組みを進め、豊島区が目指す国際アート・カルチャー都市実現に向けて邁進をしてまいりたいと。コロナ禍の大きな影響を受けても、文化の火を灯し続けてまいりたいと思います。

豊島区はこれらの成果を踏まえ、次世代にしっかりと文化を引き継ぐために、11 月 1 日、としま文化の日を制定し、豊島区民お一人お一人の力を結集して、さらなる文化都市をつくりあげてまいりたいと思います。11 月 1 日、としま文化の日を中心に、様々な事業展開してまいりますので、文化を守り続け、発展させるための特段の財政支援等をお願いいたします。ちょっとお時間オーバーしましたが、よろしくどうぞお願いいたします。

○行政部長 高野区長、どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 まずコロナ対策であります。もう本当にポスターの掲示等、まちをあげて取り組んでいただいたこと、敬意を表したいと思います。

また、PCR の検査については、体制の整備にいち早く取り組んでいただいております。PCR センターを設置した場合、運営費、設備整備費の補助もしております。それから重症化リスクや拡大リスクの高い施設等について、独自に行われる PCR 検査等の取り組みも支援をしているということでもあります。

それから特老、特養、そして障害者の支援、やはり重症化しやすい等、影響が大きいということ等で、施設の職員、そしてまた入所者に対しての PCR 検査を実施した場合の支援を、補正予算で措置をしたところでございます。有効に活かしていただくこととなるかと思っております。

それから PCR の検査をはじめ、地域の実情に応じた対策の取り組みを進めておられると

いうことで、これまでの補正予算等も工夫していただければと思います。

それからSDGsのマークが光っておりますけれども、住民に身近な取り組みを進めておられるわけで、こちらにも敬意を表したいと思います。

SDGsの目線に立った政策を積極的に展開していくこと、そしてまた豊島区、産業に積極的に取り組んでおられる自治体と連携、共同していくことによって、東京都も全体がSDGsを達成できるような、そういうまちづくり、そして意識づくりをしていきたいと考えております。豊島区の取り組み等については、東京都のホームページ等で様々な広報も協力していきたいと考えております。

サンシャインシティでありますけど、これについては引き続き豊島区さん、サンシャインシティと、特定街区の変更については協議を進めさせていただくという点と、西口ですけども、池袋駅コア・ゾーンガイドライン2020にも沿ったまちづくりの推進ということで、引き続きこちらの方も連携をして、事業者との協議を進めてまいるということ。

最後、アートアンドカルチャー都市らしい、最後のお話でございましたけれども、池袋エリアで毎年芸術祭を開催しております。これからも都の東京芸術劇場と、区のブリリアホールが核となって、東京の舞台芸術等を盛り上げていくことは重要です。

特にこの間、非常にダメージが大きいんですよ、このエンターテインメントの皆さんというのは。それだけにコロナにしっかりと取り組むと同時に、この文化、芸術の重要性、これを引き上げていく必要がある。その意味では文化の日を制定されるというのは、非常に意義のあることだと考えております。

お招きもいただいておりますが、ちょうどその日は出られなくて、何らかの形で対応させて。

○豊島区長 いえいえ、大丈夫です。

○知事 はい。分かりました。私から以上です。

○行政部長 それでは今のお話を受けて高野区長、いかがでしょうか。

○豊島区長 本当に大変ありがたいいろいろな、前向きな対策等々、まさに東京都と区と連携していかなきゃいけない、そういうようなお話、十分にしっかりと承りました。

特に私、今回このコロナウイルス等々の形の中で一番、保母さん、保育士さん、それから学校のいろいろな携わっている方々が、非常にコロナに対する不安をお持ちになって、そして私たちがうつしたらいけないし、うつってもいけないという、そういうことが現場から相当上がってきて、その担当は今まさに高際副区長がやっているの、一言機会をいただいて、どうぞ。

○副区長 やはり現場最優先の区長の所ですので、保育園のところは半分ぐらい実際現場を回りましたところ、今、区長の方で申し上げたとおり、濃厚接触者にならなかったけれども、夫が濃厚接触者で一週間家にいるんですとか、その間にうつっちゃっているんじゃないとか、それで出勤して小さい子を抱っこしていいんだろかっていう、ものすごい不安をあちこちから伺いました。これはお子さん自体の感染リスクはもしかしたら低いのもかもしれませんけど、やはり働くうえで濃密になるのが仕事という中で、ここのその心

の不安を取り除かなければいけないのではないかと、これを非常に感じまして、区長もまさにそうだと、ということで、今回補正予算に掛けているんです。

それで、実は同じような話が障害施設とか、介護施設からも出てきておりまして、そちらはそちらで不安を抱えて出勤して、介護したり、支援したりするのがやはり感染リスクが高い方々だということで、そちらについてもあちこちから声が聞こえてきておりました。

東京都の方で補正予算を掛けていただいて、本当にありがたいなと思っておりまして、当初の今掛かっている補正予算だけですと、うちですと、例えば介護だと私達が支援したいなと思っているところが300ぐらい施設があるところ、東京都の今回の対象が14なんです。

障害も150ぐらいあるうち、2施設。多分その特養とか、規模が大きい所だったり、入所施設だったりっていう所だったと思うんですけども、そこも非常にありがたいなと思っておりまして、随分少ないんだなと。

その後、いろいろ局から情報をしつこく、しつこく引っ張り出してきたら、50億の7月の補正の区市町村支援のところ、実はやるんだよということで、それもなかなかマル秘情報がある中でしつこく、しつこく聞いていて、それでだんだん増えてはきたんですけども、例えば介護なんかですと、うちは訪問介護、各ご家庭にホームヘルパーさんに伺う時に、各ご家庭に行く時に私が感染源を持って回るんじゃないかっていうご不安もあるので、例えばそういうところを豊島区としては職員の方に安心したいと。

ただ、そういうところは一定の基準でお決めいただいているんでしょうけれども、そういうところで、現在もしできればこの辺まで支援があるといいなっていうところの出張っちゃった部分は、区長の方とお話をして、区として何らか考えなければいけないかな、できればゆくゆくは東京都からご支援いただけるといいかなんていうことをお話しておりました。

職員が安心して保育なり、介護なり、支援なりができるような、そこは現場としては最優先で不安を取り除くべく、取り組んでいきたいなと思っております。

○豊島区長 これは夜の街作戦の中で最初のホストクラブに対してクラスターが出て、これが豊島区としての初めての体験だったんで、徹底的にホストクラブの感染していない方も全て、ピンポイントでPCR検査をすべきだ、保健所長が頑張って、全員漏れなくこれできたということがスタートになりました。キャバクラの方にもかなり強力に、こういうような形で感染の危険のあるようなものに対しては、徹底的にこれをやろうということが、今回の夜の街作戦の大きな成果ではなかったかなということからの、今の高際の発言でありますけど、随分、副知事成長したでしょ。ありがとうございます。一生懸命、現場を中心にやっているんで、大変現場の声を聞きながら、東京都と。

○知事 せっかくですから、保健所長どうぞ。

○池袋保健所長 東京都さんから半年以上に渡りまして、保健の応援職員を出していただいて、大変優秀な職員を出していただきまして、保健所としては非常に感謝しているところで、今回区長が、あと高際副区長からもお話がありましたけど施設、保育園とかで陽性

者が出まして、保健所としては濃厚接触者で行政検査の枠を決めるわけですけど、やはり全員やるわけにはいかない場合もありますので、かなり無言のプレッシャーみたいな方もありますし、あとは要望って一杯電話が掛かってきていますので、今、お話がありました濃厚接触者じゃない方について、なんらかのこういうような検査ができるようなシステムが保健所としても、今後また健診をやっていく上で非常に助かるということですので、ぜひよろしく願いいたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 現場のお声を十分聞かせていただいたところでございますが、また引き続き、コロナ対策も時々刻々と状況も変わってきます。また、なすべくこと等、しっかり連携させて進めていきたいと考えています。

それから昨今のコロナの例を見ても、結構外国からの方も多し、特に豊島区は外国人比率も高いところで、やはり三密の話とか、手洗いとか、マスクとか、そういう都民なら皆、知っていることが、まだそういうところは伝わってなくて、その職場からクラスターが出る等の例も、これは豊島区ではありませんけども出ておりますので、ですから多言語というのがこれから必要になってくるかなというふうに思います。

こういうようなところも情報の発信の仕方等、バラバラではなくて、連携取ればと思いますし、今後のデジタルトランスフォーメーションについても、こちらも宮坂副知事もおられますので、いろいろ連携を取って効果的に進めるのが必要かなと、そのように考えております。またどうぞよろしく願いいたします。

○豊島区長 どうもありがとうございました。お願いします。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

○豊島区長 どうもありがとうございました。